

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和6年2月13日（火）

2 確認箇所

高温焼却炉建屋東側

3 確認項目

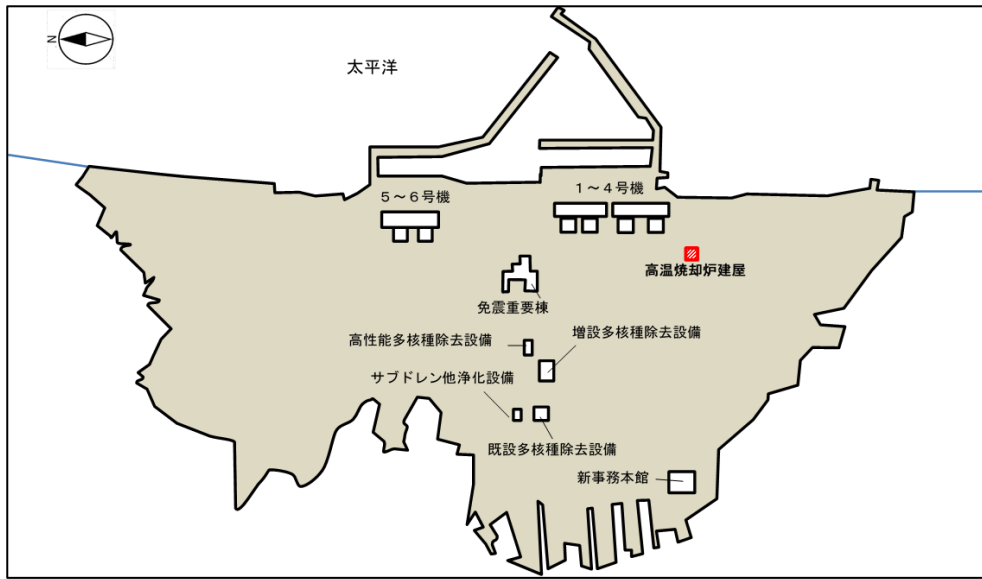
高温焼却炉建屋東側壁面配管からの水の漏えいの対応状況

4 確認結果の概要

令和6年2月7日に発生した高温焼却炉建屋東側壁面の配管（第二セシウム吸着装置に接続する水素ガス排出用の排気管）からの放射性物質を含む水の漏えい事象の対応状況を引き続き確認した。

（図1）（写真1）（前回確認：[令和6年2月9日](#)）

- ・漏えい箇所下部北側（土間コンクリート北側）及び土間コンクリート東側周辺の汚染土壌の撤去は終了し、埋め戻し用の砕石が搬入されており、一部は砕石で埋め戻しされていた。（写真2）
- ・土間コンクリートでは、放射性物質の飛散防止のために、ポリウレアをコンクリート表面に吹き付けて塗装する作業を行っていた。（写真3）
- ・作業に伴うダスト濃度を連続監視している3箇所のダストモニタ（作業箇所付近、南側エリア境界、北東側エリア境界）の現地確認時における指示値は、約 $1 \times 10^{-6} \sim 1 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ であり、構内ダストモニタの警報設定値（ $1 \times 10^{-4} \text{Bq/cm}^3$ ）を下回っていた。
- ・東京電力によると、表面線量がバックグラウンド（0.02mSv/時）を超える周辺土壌を撤去したとのことであり、今後、土間コンクリート下部の土壌の汚染状況を確認するとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
高温焼却炉建屋の外観
(北東側から撮影)



(写真2-1)
汚染土壌撤去後の状況①
(東側から撮影)



(写真2-2)
汚染土壌撤去後の状況②
(南東側から撮影)



(写真 3-1)
ポリウレア吹き付け作業の状況①
(北東側から撮影)



(写真 3-2)
ポリウレア吹き付け作業の状況②
(北東側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。